



乳歯がぐらぐらしてきた



早い子で4才後半頃に下の前歯の交換が始まります。

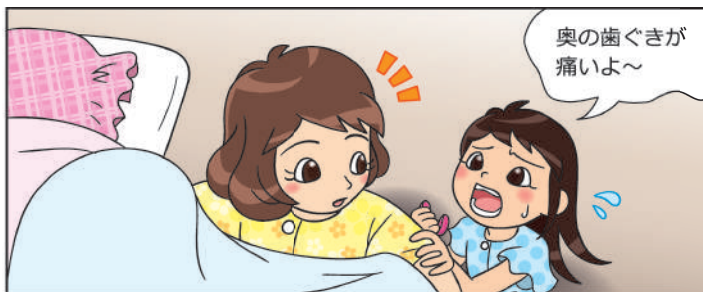
乳歯がぐらぐらしてくると、装置を入れるときに当たったり押されたりして、痛みを感じたり、装着を嫌がる場合もあります。

その場合は使用を中止し、調整をするようにしましょう。

調整は、ぐらついている乳歯が当たらないように周りをくり抜いてください。

この時、くり抜きすぎると破折の原因になるため、装置の厚み(歯冠から咬合面までの厚み)は2ミリをキープ、薄くなるようなら、全体の高さを上げましょう。

注意点は部分的に厚みを足さないことです。厚みが均等でないと破折のリスクが高まります。



永久歯が生えてきた



上下の前歯や、6才臼歯が生えてきたら要注意です。
注意する点は以下の通りです。

- 経過観察を1ヶ月に1回にする
- 前歯の生え変わりの場合は萌出を阻害しないように装置の内面の調整が毎回必要です。
乳歯が抜けず、乳歯の舌側から萌出した永久歯に装置が当たってしまう場合もありますし、切端が装置に当たっている場合もあります。
- 6才臼歯が萌出の場合は、萌出前に歯肉が盛り上がり、装置の最遠心に当たる場合もあります。
萌出時に当たらないように、Eの遠心部分をカットしましょう。
- 臼歯部の萌出が未熟な場合は、前歯の交換で、装置がしっかりと合いません。がたつく場合もあります。
がたついたまま装着していると、破折の原因になるので、交換が始まっているお子さんの装着感のチェックはしっかりと行いましょう。